

(様式第1号)

平成23年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成24年1月20日(金) 14:00~16:15
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 守上 三奈子 副委員長 大塚 圭子 委員 笠原 清次 委員 中上 二郎 委員 半田 孝代 委員 若林 敬子 委員 北野 章 委員 木高 守
欠席者	委員 今泉 亜紀 委員 中村 美津子
事務局	社会教育部長 西本 賢史 生涯学習課長 長岡 一美・生涯学習課主査 細山 由美・生涯学習課 北詰 真衣
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議題

- ①校庭開放管理人意見交換会及び応急手当研修会報告
- ②岩園小学校の一旦下校について(保護者アンケート及び学校アンケート結果報告)
- ③教室型について(図書館子どもの部屋)
- ④その他

2 提出資料

- ・レジメ
- ・応急手当研修会資料一式
- ・意見交換会まとめ
- ・岩園小アンケート結果 報告資料一式
- ・図書館子どもの部屋資料一式

3 審議内容

(1) 開会（社会教育部長あいさつ）

(2) 議題

< 守上委員長 >

議題（1）校庭開放管理人意見交換会及び応急手当研修会について、事務局より報告をお願いします。

< 事務局：北詰 >

（提出資料に基づき報告）

< 若林委員 >

救急箱の設置の件について、山手小学校は、職員室に日誌と救急箱を置かせていただいておりますが、コミスク室に置いている学校もあることを知りませんでした。

土曜日の救急箱について、コミスク室に置いておくほうが良いなら、鍵をお渡ししてコミスク室に置くようにしてはどうですか。

< 事務局：北詰 >

検討します。コミスク室に設置させていただけるなら、土曜日のみではなく、平日の救急箱も同じ場所に設置をさせていただけるようお願いしたいと思います。

< 中上委員 >

管理人室はないのですか。

< 事務局：北詰 >

管理人室は設けておりません。

< 木高委員 >

学校の先生は、管理人の存在を知っているのでしょうか。

< 事務局：北詰 >

管理人さんのことはご存知です。初めて管理に行く時には、校長先生、教頭先生にご紹介をさせていただいております。また、開放日誌の回収やチラシ配布を、教頭先生を通じてさせていただいているので、認識されてはいます。

< 若林委員 >

意見まとめの中の、山手の管理人の発言で、「コミスクの行事に参加した後に、地域

の方とも顔見知りになれたし、学校の先生の対応もそれ以後変わった」と書いていますが、学校の先生の対応とはどのような様子なのでしょう。

学校の先生は管理人さんに対して、どのような認識を持っているのでしょうか。

<笠原委員>

管理人さんが、子どもたちのために管理をしていただいていることは、学校の教員はみんな認識しています。

<事務局：北詰>

校庭開放に限らず、ボランティアが学校に入る時に、学校も受け入れ態勢が必要ですし、ボランティアさん側も学校に入る時のマナーが必要というのは今日言われていることなので、今後、研修の中に取り入れていきたいと思います。

<中上委員>

校庭開放時は、基本的にコミスクは校庭を使用しませんので、管理人さんが地域の方と顔を合わす機会は普段から少ないと思います。

<事務局：細山>

校庭開放管理人意見交換会の中でも、管理人自身が、自分の自己PRをしていくことも必要という意見ができました。

<守上委員長>

学校、管理人が互いに意識することが大切だと思います。学校側も、管理人の周知についてご協力いただくことは可能ですか。

<笠原委員>

子どもたちの安全を管理してくださっている方なので、周知しないといけないと思っています。

<守上委員長>

議題（２）岩園小学校の一旦下校について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：細山・北詰>

提出資料に基づいて説明

<中上委員>

ランドセルについて、置き場所は決めてあげないといけないのではないのでしょうか。もちろん小学生なので、お金とかは持ってきていないと思いますが、自己責任という形だけでよいのでしょうか。

また、管理人がどこにいるかわからないという点については、学校側から紹介、顔合わせも必要ですが、管理人さんが私服で校内を巡回しているのであれば、色のついたベストやジャンパーを着てもらふことにより、存在をアピールできるのではないのでしょうか。不審者が侵入を考えている場合に、管理人の存在が抑止の一つになると思います。名札をつけているのはわかりますが、遠目で誰が見ても管理人だとわかるようにする必要があります。それによって、教員、子どもや保護者に管理人であることを認識してもらえらると思います。

終了時間の周知については、学校のチャイムを活用する方法があります。

下校時の安全管理については、自治会では、学校から1年生から6年生の下校時刻の一覧をもらって下校時の見守りをしています。また、私は、シルバー人材センターにも所属し、精道中学校区の青色パトロールも行っています。打出浜、宮川、精道小学校区を1時半から4時半まで3時間掛けて回っています。そのおかげで、校区に関連する老人会や自治会の団体の見守り場所等の状況がわかります。一箇所の見守りを終了するのに1時間以上はかかります。曜日や学年によって時間は違いますが、夕方より朝の方が見守りはやりやすいです。朝は、子どもが通る時間が15分程に決まっていますが、帰りは1時間を越えるので下校時の見守りは大変です。下校時だけでも大変なのに、校庭開放終了の6時過ぎまで見守りを行うのは、皆さんボランティアでしていただいている中では困難だと思います。下校ルートに面するお店や事業所等に声掛けをして、協力をお願いするというのはどうでしょうか。

<守上委員長>

学校側からの意見としてはいかがですか。

<笠原委員>

事業を開始する時刻にあたっては、案1の3時半からが良いと思います。下校の時刻について低学年は3時前に、高学年は4時前に学校を出ます。6校時が終わるのが、どこの学校も3時半くらいですから、運動場を6校時に体育で使うことも考えたら3時半スタートが妥当です。

学校ごとにコミスク活動を開始する時刻との兼ね合いについて、コミスクは現在4時開始が基本になっていますが、前倒しにして、引き続いて学校に残ってコミスク活動に参加する子どももいますので、その時間との調整も学校によっては必要になります。

また、授業終了後から3時半までの30分程度の管理をどうするかという話になりま

す。管理人の配置が3時から出来れば良いのですが、3時半からとなると、それまでの管理責任は学校になります。これは学校側と十分調整する必要があります。

校庭開放終了の下校に関する課題については、朝日ヶ丘小学校では水曜日に一旦帰らず参加できる校庭開放を実施していただき、安定的に40～50名のこどもが参加しています。この子どもたちの下校について特にトラブルは聞いておりません。

私の考えでは、1年生の保護者などでご心配されるならば、この事業への参加はおそらく無理です。それで良いのではないかと思います。つきましては、自分のお子さんが時刻を守って帰ること、また帰り道の危険性ということも、保護者の方で判断されて、参加できるという条件で参加いただくことが必要だと思います。

学校側と管理人側との連携が当然出てくるとは思いますが、それは実施する中で考えていけばよいのではないのでしょうか。

<若林委員>

前回の運営委員会の中で、一旦下校が一番課題になっておりました。先ほど笠原委員がおっしゃられたように、3時半スタートが空白の時間が生じず一番良いと思います。学校ごとに差異があると思いますが、山手の場合は、3時半からコミスク・スポーツクラブの活動は開始しています。子どもがウロウロするよりも、そのほうが良いのではないかと思います。

<守上委員長>

岩園側の意見として、大塚委員ご意見はいかがでしょうか。

<大塚委員>

岩園の場合は、コミスク活動についても3時半にすることの調整が非常に困難です。コミスク活動も3時半に前倒しできないことにより非常に支障をきたしています。4時開始という原則を学校側は守り続けています。コミスク活動の時間を早めたい旨を依頼した時に、コミスクの関係者が子どもたちを見てくださいと言われました。

<若林委員>

その話をされた時期から、校長も教頭も代わられたと思いますが、依然対応は変わらないのですか。

<大塚委員>

変わりません。

今回の一旦下校しない場合の前倒しについても、低学年の授業が終わってから3時半までの間どうするかという問題が必ず出てくるとは思います。

今回の一旦下校については、芦屋市として、学校単位で話を進めていくのでしょうか。

<事務局：細山>

今回考えておりましたのは、岩園小学校についての一旦下校を解消するかどうかです。まずは岩園小学校で実施をして、他の学校については、今後、一旦下校を解消したいという意見があれば、順次考えていく予定ではあります

今の段階では、岩園小学校のみを検討しています。

<事務局：北詰>

岩園小学校はモデルケースという考え方です。事業の取り扱いを変えれば、色々課題も出てきますし、それを検証しながら進めていく形になりますので、一度に全ての学校をとというのは無理です。

他の学校については順次と考えています。何もしなくても参加者が多い学校はあるので、そういったところは必要ないと考えています。

<笠原委員>

全市的に放課後こどもプランは3時半開始を原則にして実施するというのを、この委員会で決めるのでしょうか。

学校側の立場としては、岩園小学校のような学校にとっては、一旦下校の解消は課題としては大きいことです。例えば、市全体で取り組んで、実施時期を学校によりずらす等のゆとりを持たないと、難しいと思います。

朝日ヶ丘や山手のように、家に帰らずに残っているような子どもたちが何%かいる学校については、それを放課後の子どもたちにも適用するという考えがあてはまりやすいと思います。後は、事業を3時半からスタートするとして、30分間低学年の子どもたちの管理を誰がするか等の個別の課題を解決すれば良いのですから。

しかし、校庭開放やコミスクを一斉下校させてから実施している学校は、難しいです。それをどう解決するかです。

<事務局：長岡>

この委員会では、方針的なことを決めることは出来ると思います。しかし、笠原委員がおっしゃったように、各学校の今までの方針等があるので、決定したことについての強制は出来ません。この委員会で方針として決まった場合は、それを教育委員会として、実施するための課題解決について学校と協議させていただくことになります。

必ずしも、実施条件について全ての学校が一緒である必要はないと考えています。基本方針は持っていますが、その中で、学校により子どもが一番参加しやすく安全な方法を考えては行きたいと考えています。全校一斉に実施という事は考えていません。

<大塚委員>

学校に対して、「教育委員会としての方針変更」と言っていただいた方が、私たちとしても学校側との調整がしやすいです。教育委員会として、一旦下校をしなくても良いという基本方針を出していただいた方が、学校にあてはまるかどうかは別として、岩園の場合は良いです。

<事務局：長岡>

その点については、教育委員会定例会としても一旦下校しない方向で実施しなさいと言われておりますので、方針としては、一旦下校しない方向で決まっています。

しかし、具体的に、開始時間が決まっているわけでもないですし、どういう形で実施するか、詳細は決まっています。この委員会でそれを決めた上で、また教育委員会定例会にも報告や協議を行い、統一した見解を出し、実施に向けて各学校と相談する形になると思います。

今は、第1回の委員会でもご意見いただいたように、岩園小学校の状況が深刻なため、岩園小学校の課題を解決しないと次に進めないというお話がありましたので、まずその解決に向けて事務局としては考えていましたが、基本方針を岩園も含めて全校として決めるということであれば、それでもかまいません。

基本方針で実施する場合の時間等の一定ラインを、もう少し具体的にこの委員会で決めていただきたいと思います。各学校の状況により若干取り扱いが違うということは結果的には出る可能性はありますが、一定の方針というのはここで決めます。

<守上委員長>

実施が難しい岩園がうまくいけばいいですね。

<北野委員>

一旦下校しない方針を、岩園小学校だけに適用するのは問題だと思います。なぜ岩園小学校だけにとこの疑念が生まれかねません。やはり他の学校も、実施時期は別として、その方針で動いていく形で進めないと、岩園小学校としては抵抗あると思います。

<事務局：長岡>

では、一旦下校しないことを全体の方針としてという形で進めていきたいと思います。そして、一定のラインをこの委員会で決めて行きたいと思います。

<半田委員>

岩園小学校のアンケート結果は、学校側にも伝わっているのですか。

<事務局：北詰>

このアンケートの集計については、まだ学校にはお知らせしていません。

<事務局：長岡>

保護者アンケートとは別に、一旦下校しない形で放課後こどもプランを実施する場合、
どういう課題があるかということ、各小学校の校長先生、教頭先生にお答えいただい
ています。岩園小学校からお答えいただいた分は本日の配布資料でございます。

<笠原委員>

この件については、校長会でもきちんと受け止めないといけないことになります。ま
た学校教育課での対応も必要になってくると思います。私はこの委員会に出ているので、
目的を理解しやすいですが、この件に関しては、事前調整をしっかりとっておかないと
うまくいかないと思います。

この運営委員会の意向を含めて、校長会との連携はかなり重要です。連携がしっかりと
されなければ、せっかく子どもたちの事業であるにも関わらず、うまくいきません。

一旦下校について様々な困難な部分が校長の立場でも見えてきます。課題は学校によっ
て違う部分もありますが、学校にとって課題のハードルが高ければ難しいと思います。

<半田委員>

保護者の方たちにも、一旦下校について認識をしてもらう必要があると思います。

<守上委員長>

いろいろと調整が必要な部分はありますが、教育委員会の方針といたしましては、一
旦下校をしなくても良いということ。また、参加体制の分は、案1の方向で進めること、
時間的には3時半が妥当ではないかということで、この方向で進めることを了承してい
ただいてよろしいでしょうか。具体的なことは学校や委員会のほうでつめていくという
方向で行きます。

一旦下校については、岩園小学校だけではなく、基本全体で進めていくということ
よろしいでしょうか。

<各委員>承認される

<守上委員長>

教室型、図書館の子どもの部屋について事務局より説明をお願いします。

<事務局：北詰>

ー図書館子どもの部屋を、放課後こどもプラン事業に組み込む旨説明ー

詳細については、半田委員から

<半田委員>

プログラムは、お手元に配布しています。市内すべての小学生を対象に、月に1又は2回、学校行事等は外すようにして、第2、4土曜日の午前10時15分から11時45分までの90分で行っています。場所は、図書館の2階の集会室で、50人くらいが定員、種目によっては30人を定員としています。指導者は、確かなものを子どもたちに体験してもらいたいのので、専門の方を呼んで「天体の話」や「英語で遊ぼう」、「理科教室」等を専門の方に講師を依頼しています。広報活動については、各学校へチラシを5,000枚印刷して、全児童にいきわたるように配布しています。申し込みは先着順にしています。

事業成果としては、参加型なので、子どもたちに幅広い体験をしていただけます。校区を越えた交流も出来ますし、異年齢、異世代の交流もできます。なにより、土曜日のお休みの子どもたちが、家でゲームやテレビばかり見ているよりは、ちゃんと外に出てきてくれるのが嬉しいことと思っています。興味を持って参加しているので、子どもたちみんなすごく吸収が早いです。

課題としては、運営費と、人手です。今、経費については、会員の持ち出しでおこなっています。また、実費がかかる時は実費分を参加費としていただいています。

人手については、メンバー内で都合のつく人、5、6名が常時参加しています。

また、関係機関として更正保護女性会の方も、子育て支援を行いたいとのことで、お声かけして、2名きてくださっています。中学生にも呼びかけています。しかし中学生は卒業してしまうので続きません。人気があるお茶の時は、保護者の方が手伝ってくださったりします。

<守上委員長>

今のご説明に対して質問はございますか。

<守上委員長>

予算の配分はどうなっていますか。新規事業として加えるにあたって、他のところにしわ寄せがくるのでしょうか。

<事務局：北詰>

今年度については、雨で報償費に余裕が出ている部分があるので、それで充てられると思います。来年度については、教室型を増やしたいというのは前々からこの委員会でも協議をしていますが、新規事業用に予算を取っています。したがって、その分が子どもの部屋に充てられます。

<若林委員>

例えば、一つの教室にいくらかの予算をつけるのですか。

<事務局：北詰>

実施の時間と人数によります。こちらからお渡しするのは、学習アドバイザーの謝金になりますので、何人で、何時間実施するかによって変わります。

<若林委員>

学習アドバイザーというのは登録制ですか。登録したら学習アドバイザーという資格がもらえるのですか。

<事務局：北詰>

資格ではありません。学習アドバイザーは、子どもたちに学習的指導が加わるという点で安全管理人との取り扱いが違います。

<若林委員>

放課後プランの中での、講師的な役割を担う人を学習アドバイザーと呼ぶのですか。

<事務局：長岡>

教室型で、昔遊び等の指導等や事業の企画をする人です。校庭開放の方は、安全管理人という立場になります。お渡しできる費用は、それぞれ実働していただいた時間に対しての謝金となります。

<中上委員>

クリスマスリース作りについて、チラシでは定員40人となっていますが、当日は、参加者何人くらいきておられましたか。

<半田委員>

先着順なので、40人ですが、お断りした方もたくさんいました。

<若林委員>

山手の方からも、参加していますか。

<半田委員>

来ています。

<北野委員>

年間でいくらの予算措置になるのですか。

<事務局：北詰>

大まかにですが、来年度、新規で教室型を増やすための予算を組んでいますが、それは、142,560円の枠を取っています。

<守上委員長>

図書館子どもの部屋については、承認いただけますか。

また、他に教室型事業をして手を上げられたとき、それもまだ入る余地はありますか。

<事務局：北詰>

予算との兼ね合いがありますが、相談の上、新規事業について余地はあります。

<若林委員>

この話は早めに地域に発信しなければいけませんね。

<事務局：北詰>

前回の話の中で、教室型を増やすにしても一旦下校を解消しないと結局人が来ないのではないかというお話になっていたかと思います。前回会議から、一旦下校の問題解決に向けての準備をしていたので、教室型について受け皿の依頼について発信はしておりません。

<守上委員長>

確かに、一旦下校優先で進めて行ったほうが良いかもしれませんね。

<守上委員長>

次回の日程について、事務局よりお願いします。

<事務局：北詰>

3月は議会も入ってきますし、他行事との兼ね合いもございますが、もう一回3月に実施をしたいと思います。

<閉会>